

Jealousick PaKun 通信

2014年7月号

トリケラトプス展に行ってきました！

↓目つきが相当悪いインロン

5月中旬に、大阪市立自然史博物館にて開催されていました「恐竜戦国時代の覇者！トリケラトプス~知られざる大陸ララミディアでの攻防~」に行ってきました！この特別展はトリケラトプスとその仲間に焦点が当てられています。入場して最初に目についたのが、中国で見つかった最初のケラトプシア類、インロンの模型です。目つきは相当悪いですが、小さくて可愛いやつです。すぐ隣には、ステゴサウルスの全身骨格が展示されていました。ステゴサウリア類のプレートとスパイクはその用途が異なるようで、小型の種は身を守るため、大型の種はラジエーターとして使われていたようです。



さらに進むと、その当時の植物の展示が多く、彼らが何を食べていたのかが分かるようになっていきます。恐竜もわれわれと同様に好き嫌いがあるようです。白亜紀後期にはアジアとララミディア大陸が陸続きになり、ケラトプシア類が続々とララミディア大陸に移っていきました。ララミディア大陸での最古のケラトプシア類であるズニケラトプスが展示されていました。

また、会場中央にはケラトプシア類の頭骨が並べられ、彼らの最大の特徴でもあるフリルを見比べることができました。天井や展示物には、この特別展のタイトル「恐竜戦国時代」に合わせて、戦国大名の家紋をイメージした角竜の家紋があしらわれていました！とても遊び心のある展示です。自分が見て一番気に入ったのが、フリル上端の二本の長い角が外に向かって伸びるディアブロケラトプスです。この恐竜は斜めから見た時の画が気に入っています。正面から見た時かっこよかったのは、フリルの上端に特徴的な装飾を持ったコスモケラトプスでした。また、同じ時代を生きたテラフォネウスやパキケファロサウルスなども展示されていました。最後には、トリケラトプスとティラノサウルスの全身骨格が展示されており、この特別展のフィナーレを飾ります。トリケラトプスは人間と異なり、上下の歯をハサミのようにして咀嚼を行います。トリケラトプスの足もとには歯のレプリカが展示されており、咀嚼の際に使われるデンタルバッテリーという仕組みを間近で確認することができました。また、ティラノサウルスの足もとには、ティラノサウルスがトリケラトプスを食べるときのお食事マナーについて説明したパネルがありました。CGで表現されたイラストはちょっとグロイです。このパネルを見た大人は何やコレ！？という反応でしたが、一方で子どもはというと、嬉々としてパネルを見ていました...今回の展示会は、トリケラトプスが好きな自分としても非常に楽しめる内容でした。こんな風に、特定の恐竜だけの特別展も面白いかもしれません。アンキロサウルス展とかね。



↑ディアブロケラトプス

↓特別展の目玉！トリケラトプスの全身骨格



夏には全国各地で恐竜や古生物の展示会が催されます。福井県立恐竜博物館ではスペインの恐竜、パシフィコ横浜では恐竜の成長、国立科学博物館では絶滅哺乳類、人と自然の博物館ではゾルンホーフエンの化石・など、様々な特別展がもりだくさんです！目下、われわれのサークルでは、特別展や博物館を巡る遠征を計画中です！乞うご期待！